

尼崎市地球温暖化対策推進計画における削減目標の見直しについて

概要

- ・尼崎市では令和 3 年 6 月 5 日に尼崎市気候非常事態行動宣言（以下「宣言」という。）を表明し、「2050 年までに脱炭素社会を実現するため、2030 年の CO<sub>2</sub> 排出量を 2013 年比で 50 %程度削減することを目指す」ことを宣言しているほか、国においては地球温暖化対策計画（以下「国の計画」という。）の削減目標の引き上げが行われていること、兵庫県においても兵庫県地球温暖化対策推進計画（以下「兵庫県の計画（案）」という。）の削減目標の見直し作業が行われていることから、本市の CO<sub>2</sub> 排出量の削減目標についてもこれらの動きを踏まえたものに見直しを行います。

1 削減目標の見直しの考え方

- ・本市では宣言の表明により、取り組める対策を積み上げて削減目標を設定するというこれまでの考え方（フォアキャスト）から 2050 年までに脱炭素社会を実現するために必要となる CO<sub>2</sub> 削減量を設定し、対策に取り組んでいくという考え方（バックキャスト）に転換します。
- ・国の計画（削減目標：46%）や兵庫県の計画（案）（削減目標：48%）の対策の効果を考慮しつつ、本市における独自・追加的な対策を講じることで削減目標を 50%として掲げることとします。なお、新たな削減目標を達成するための取組については、現在の取組の深掘りによる省エネ効果の積み増しや再エネ導入の加速を基本としています。

【基準】 2013 年度実績	【新たな目標】 2030 年度目標		【現計画の目標】 2030 年度目標		【参考 直近の実績】 2018 年度実績	
排出量 (kt-CO <sub>2</sub> )	排出量 (kt-CO <sub>2</sub> )	削減率 (%)	排出量 (kt-CO <sub>2</sub> )	削減率 (%)	排出量 (kt-CO <sub>2</sub> )	削減率 (%)
3,502	1,737	50.4	2,518	28.4	2,571	26.6

※統計値や兵庫県の計画（案）について変更などがあった場合などは修正を行う可能性があります。

部門	平成 25 年度 (2013 年度)	令和 12 年度 (2030 年度)						
	基準年度	現状趨勢 (未対策の場合の将来予測)		削減量の内訳 (kt-CO <sub>2</sub> ) (対策による削減見込量)			削減目標 (案)	
	排出量 (kt-CO <sub>2</sub> ) A	排出量 (kt-CO <sub>2</sub> ) B	増減率 (%) C = (B/A - 1) × 100	国・兵庫県の取組 D	尼崎市の取組 E	電力排出係数の低減効果 F	排出量 (kt-CO <sub>2</sub> ) G = B - (D+E+F)	削減率 (%) H = (G/A - 1) × 100
産業部門	1,825	1,825	±0.0 %	315	12	575	924	49.4%
業務その他部門	607	645	+6.2 %	142	13	185	304	49.9%
家庭部門	605	605	±0.0 %	139	30	203	233	61.5%
運輸部門	408	404	-1.0 %	136	6	13	250	38.8%
その他（廃棄物など）	57	52	-8.4 %	15	11	0	26	53.8%
<b>二酸化炭素排出量 合計</b>	<b>3,502</b>	<b>3,531</b>	<b>+0.8 %</b>	<b>746</b>	<b>72</b>	<b>975</b>	<b>1,737</b>	<b>50.4 %</b>

※四捨五入を行っているため、各値と合計値が一致しない場合があります。

※統計値や兵庫県の計画（案）について変更などがあった場合などは修正を行う可能性があります。

※電力の地産地消に関連する CO<sub>2</sub> 排出量含めた値としています。

## 2 削減目標の達成に向けた尼崎市における今後の取組の方向性

・新たな削減目標を達成するために、国の対策の効果も見込みつつ、本市においては主に次のような取組を推進していくこととします。

### (1) 産業・業務部門

・過去の調査においては、一定規模以上の工場・事業所では基本的には適切なエネルギー管理・設備の維持管理が行われていることが明らかとなっていることから、今後は個々の工場・事業者の実態に即したより細かな省エネ対策を提案するための省エネ診断の実施や中小企業を対象とした取組について検討していきます。

### (2) 家庭部門

・あま咲きコインを活用して市民生活における環境配慮行動を促進するほか、大幅な省エネやCO<sub>2</sub>排出量の削減が期待できるZEH（ゼロエネルギー住宅）の普及拡大に取り組みます。また、太陽光発電設備や蓄電池の設置、再生可能エネルギー由来の電気の調達に関するコストを低減するために周辺自治体との共同購入について検討していきます。

### (3) 運輸部門

・将来的には販売される自動車が電動車となることを見据え、環境性能の高いエコカーの普及を推進していきます。

### (4) その他廃棄物

・ごみ排出量全体の削減を基本としつつ、焼却時にCO<sub>2</sub>が発生するプラスチック類の使用を低減できるような取組を検討していきます。

#### 【参考】国の計画における対策の概要

産業部門…製造業・建設業・農業などに関するもので主に工場からのCO<sub>2</sub>排出量が対象

➡高効率・低炭素型の設備（照明、空調、炉、ボイラーなど）への更新や製造プロセス（鉄鋼、セメント、ガラス、パルプ、燃料転換など）の改善などが現状の概ね1.5倍～2倍程度に増加することが想定されている。

業務その他部門…商業、サービス業などに関するもので主にオフィスビル、商業施設からのCO<sub>2</sub>排出量が対象

➡ZEBなどの省エネ型建築物、LED照明、給湯器などの普及が現状の概ね1.5倍～2倍程度に増加することが想定されている。

家庭部門…市民生活に関するもので住宅からのCO<sub>2</sub>排出量が対象

➡ZEHなどの省エネ型建築物、給湯器などの普及が現状の概ね1.5倍～2倍程度に増加すること、クール・ウォームビズ、うちエコ診断など普及することが想定されている。

運輸部門…自動車（貨物・乗用）・鉄道・バスの走行に伴うCO<sub>2</sub>排出量が対象

➡燃費性能の高い次世代自動車の普及（EV、FCV、HVなど、新車販売台数に占める割合：50～70%）、交通流対策、公共交通機関の利用などによる自動車利用の抑制、共同輸配送による効率化などが想定されている。

その他（廃棄物）…クリーンセンターでのごみの焼却に伴うCO<sub>2</sub>排出量が対象

➡廃プラスチック類の燃料化などが想定されている。

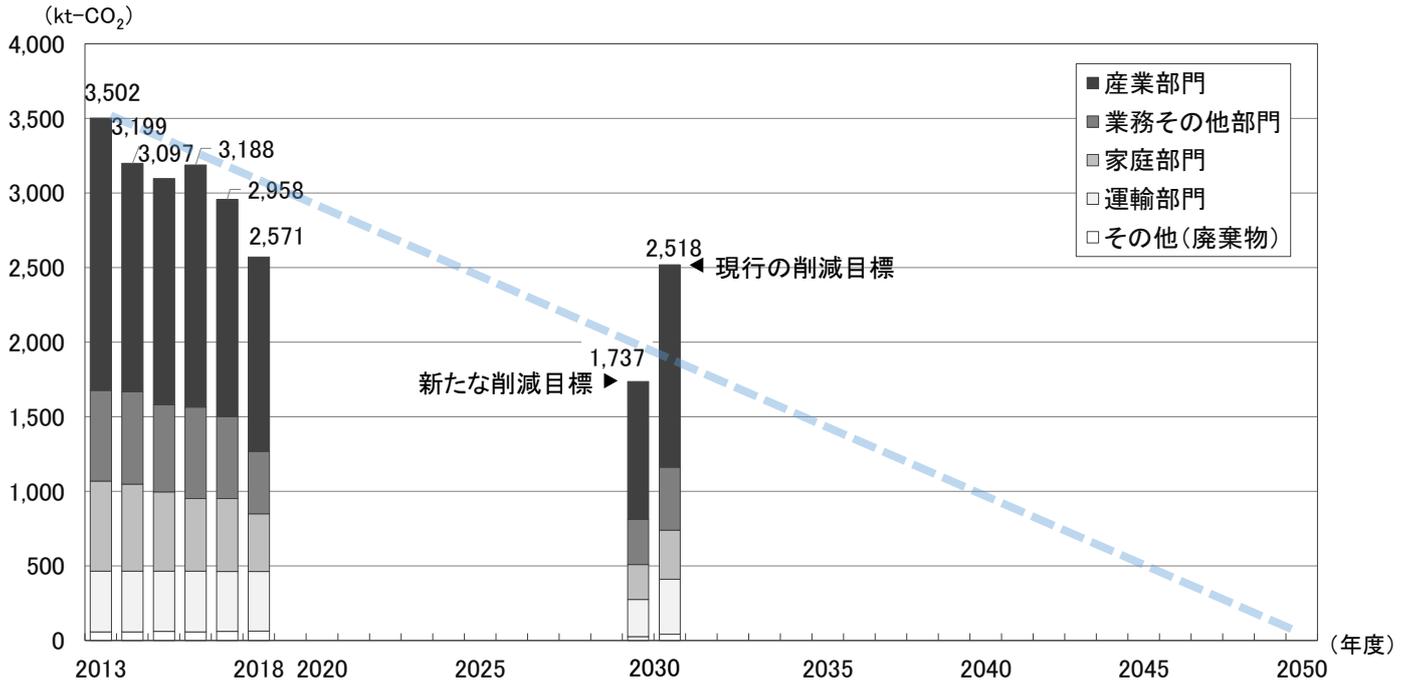
※これらの部門には属さないエネルギー転換部門に関するものとして再生可能エネルギーの導入や火力発電の効率化などによる電力排出係数の低減に関する対策などがある。

## 3 今後のスケジュール

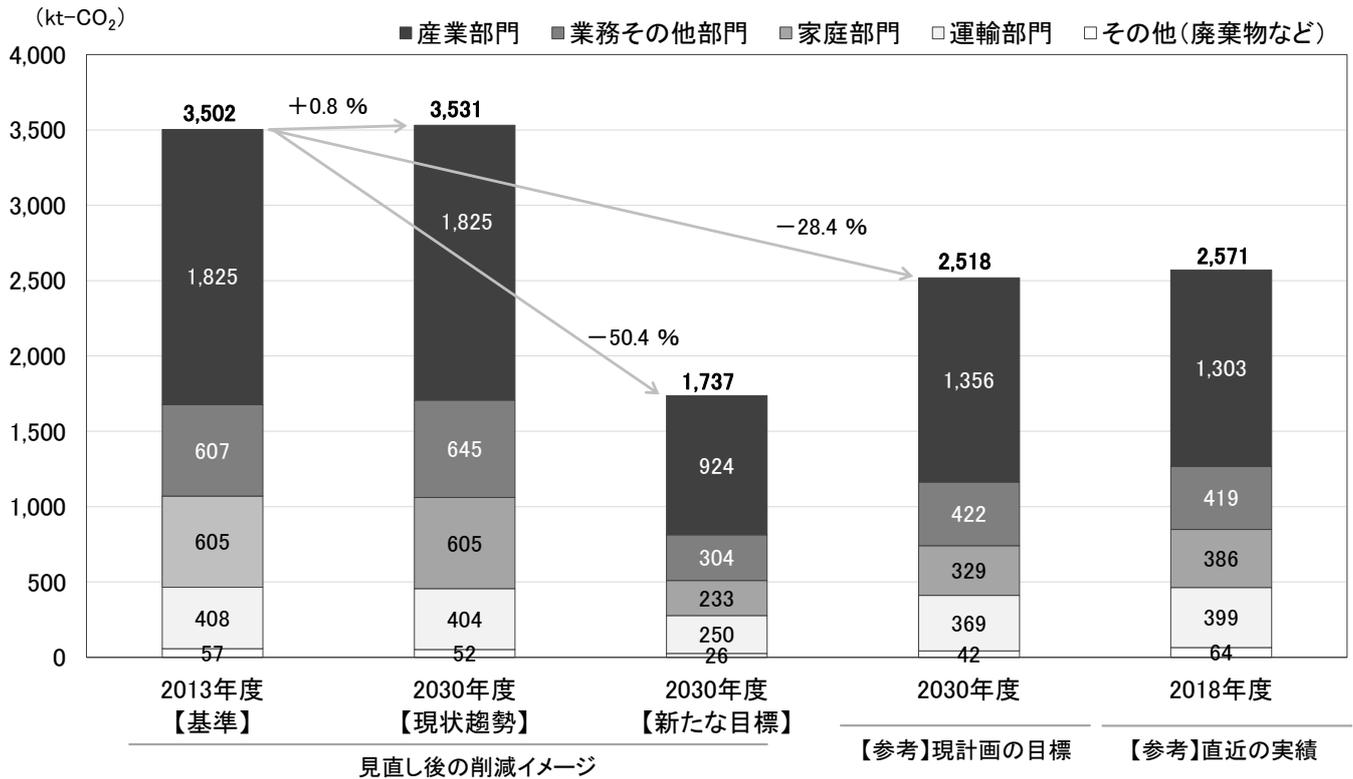
令和4年4月 新たな削減目標の達成に向けた取組の開始

以 上

## 1 これまでの実績と新たな削減目標



## 2 削減イメージ



### 3 現在の削減目標

部門	平成 25 年度 (2013 年度)	令和 12 年度 (2030 年度)						
	基準年度	現状趨勢 (未対策の場合の将来予測)		削減量の内訳 (kt-CO <sub>2</sub> ) (対策による削減見込量)			削減目標	
	排出量 (kt-CO <sub>2</sub> ) ①	排出量 (kt-CO <sub>2</sub> ) ②	増減率 (%) ③ = (②/① - 1) ×100	国・兵庫県 の取組 ④	尼崎市 の取組 ⑤	電力排出係数の 低減効果 ⑥	排出量 (kt-CO <sub>2</sub> ) ⑦ = ② - (④+⑤+⑥)	削減率 (%) ⑧ = (⑦/① - 1) ×100
産業部門	1,825	1,825	±0.0 %	127	10	332	1,356	25.7 %
業務その他部門	607	650	+7.0 %	115	10	103	422	30.5 %
家庭部門	605	542	-10.4 %	98	16	99	329	45.6 %
運輸部門	408	449	+10.0 %	70	4	6	369	9.6 %
その他 (廃棄物など)	57	54	-6.1 %	7	4	0	42	25.7 %
電力の地産地消	0	0	-	0	14	-4	-10	-
二酸化炭素排出量 合計	3,502	3,519	+0.5 %	-	-	-	2,508	28.4 %